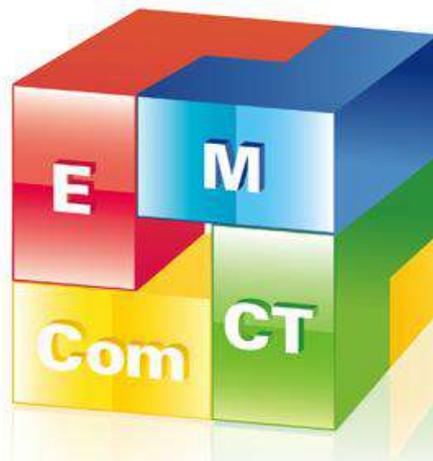


2021年3月期 第2四半期連結決算説明資料

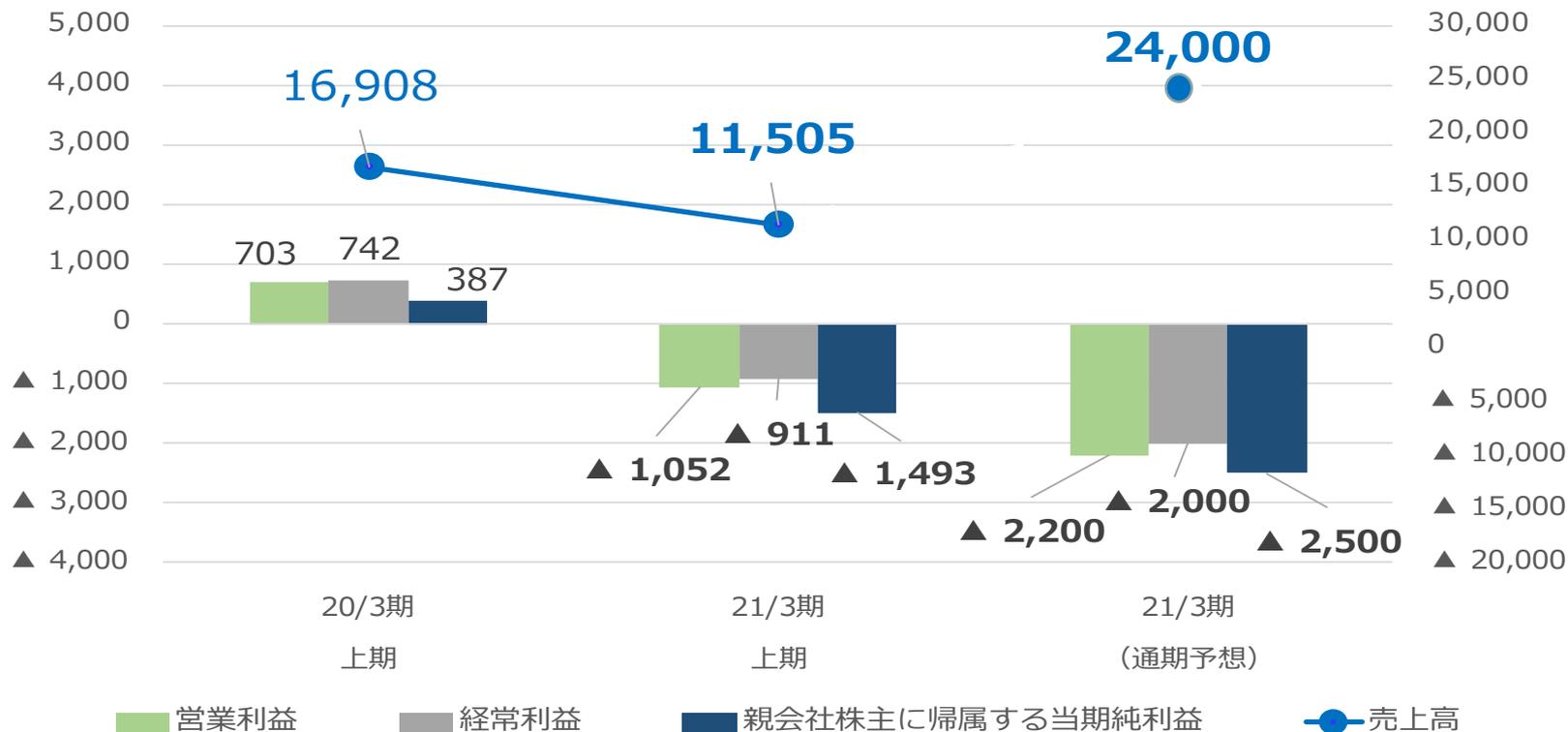
NEW オリジン *NEW* ステージ



2020年11月19日
株式会社オリジン
証券コード：6513

第2四半期累計決算及び通期業績予想

(単位：百万円)



- 21/3期上期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり大幅な減収減益
- 21/3期通期業績予想は、前回発表（2020年8月12日発表）の数値から修正なし

第2四半期累計決算

(単位：百万円)

	20/3期 上期	21/3期 上期	前年同期 増減率
売上高	16,908	11,505	▲ 32.0%
営業利益	703	▲ 1,052	—
経常利益	742	▲ 911	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	387	▲ 1,493	—
		(単位：円)	
1株当たり四半期純利益	60.44	▲ 237.03	

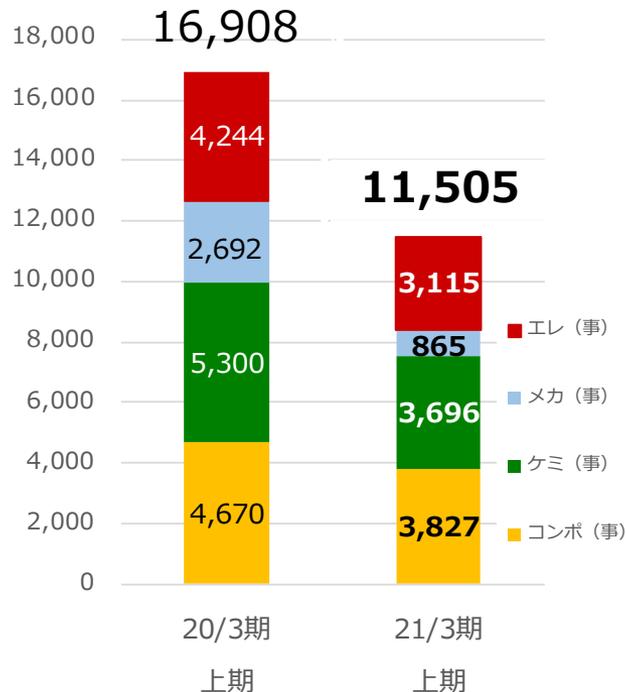
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により4事業とも大幅な減収減益。
加えて特別損失3億18百万円を計上。

(本社さいたま新都心オフィスの本社事業所への統合に伴う移転損失引当金繰入額、希望退職者募集の実施による特別退職金、半導体ウエハの外部委託生産による生産設備等の減損損失)

セグメント別売上高、セグメント別利益

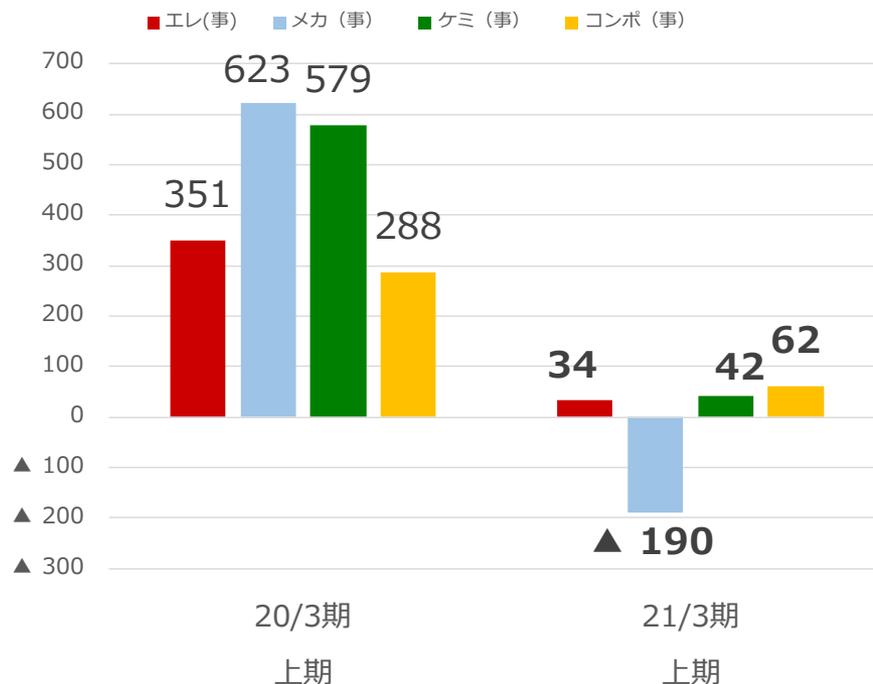
セグメント別売上高

(単位：百万円)



セグメント別利益 (全社費用配賦前)

(単位：百万円)

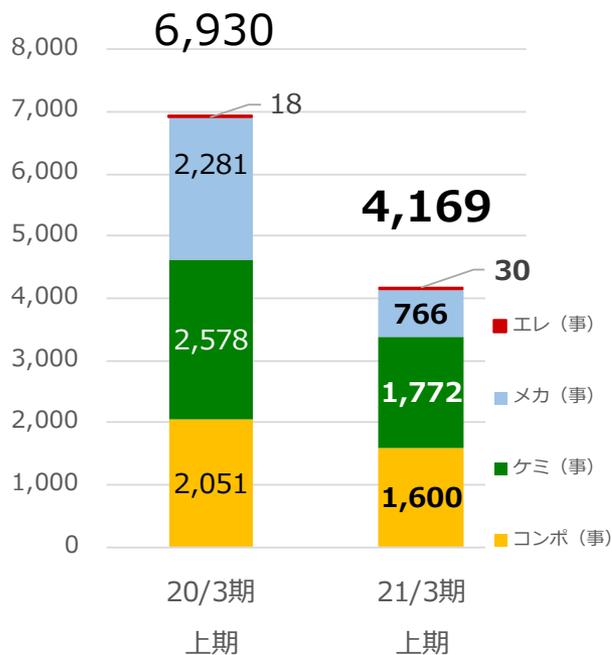


- エレ (事) : 携帯端末向け無線基地局用電源及び環境関連の高圧電源の需要減により減収減益
- メカ (事) : スマートフォン市場の成熟化による需要鈍化や新型コロナウイルス感染症の影響に伴う設備投資の抑制により減収減益
- ケミ (事) : 同感染症の影響に伴う各自動車メーカーの減産や化粧品分野の需要減により減収減益
- コンボ (事) : 在宅勤務等の浸透により、オフィス向け高性能事務機器関係が低迷し減収減益

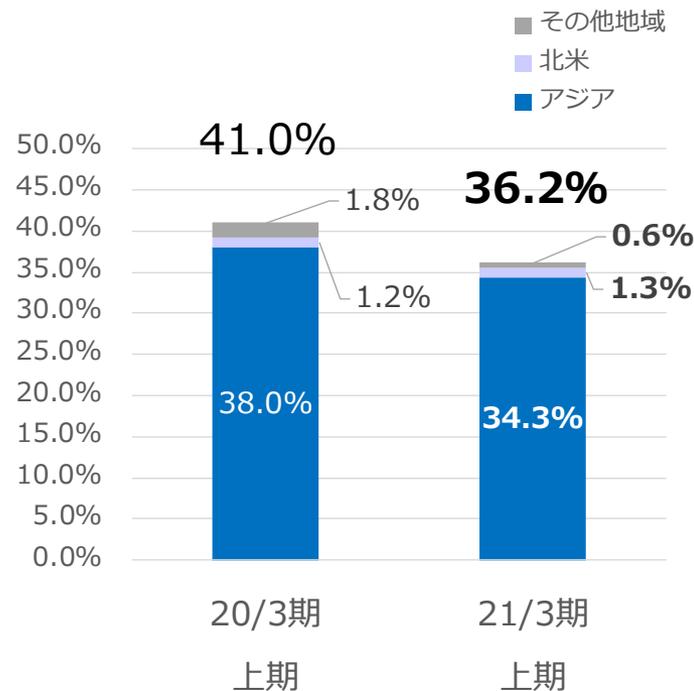
海外顧客向け売上高（セグメント別・地域別）

セグメント別

（単位：百万円）



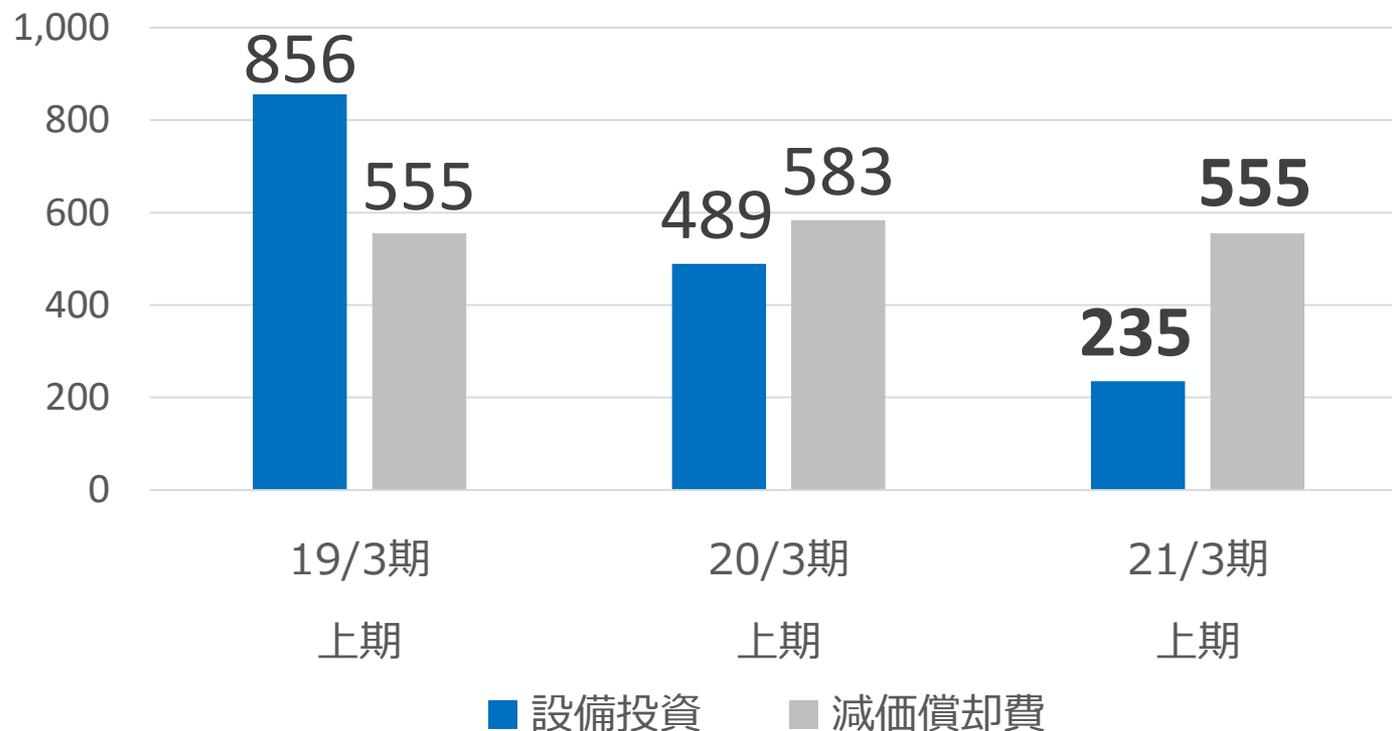
地域別売上高比率



- これまで海外顧客向け連結売上高を押し上げていたメカトロニクス事業のMDB売上及び海外子会社の売上減少により、海外顧客向け売上高・地域別のアジアが大幅減少

設備投資、減価償却費

(単位：百万円)

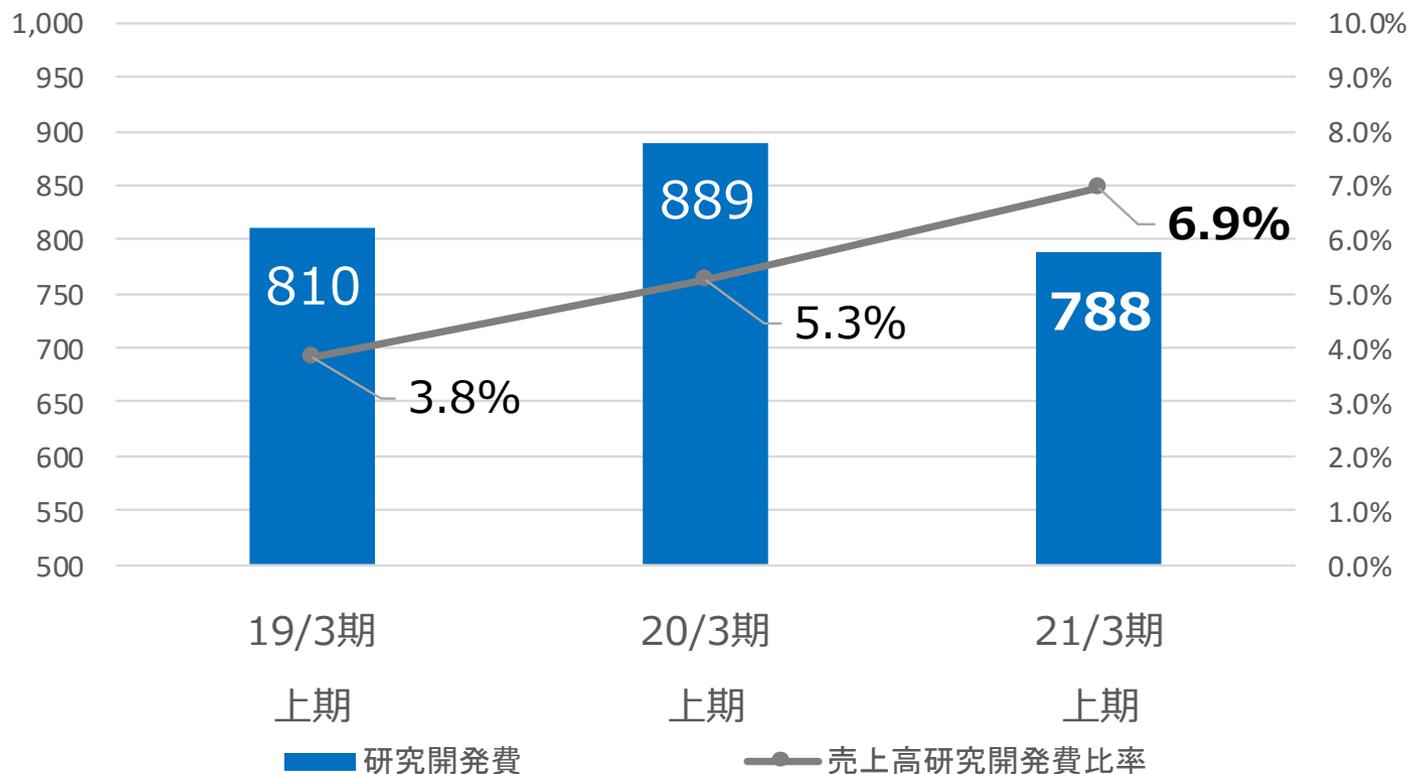


➤ 21/3期上期 主な設備投資

- ・エレクトロニクス事業、コンポーネント事業の試験機・測定器の更新
- ・メカトロニクス事業の実験機

研究開発費、売上高研究開発費比率

(単位：百万円)



➤ 売上高研究開発費比率は、売上高減少により1.3%増加

貸借対照表

(単位：百万円)

	20/3期 期末	21/3期 上期末	前期末 増減額
流動資産合計	26,704	22,244	▲ 4,460
固定資産合計	17,695	17,283	▲ 412
資産合計	44,400	39,527	▲ 4,872
流動負債合計	9,330	7,106	▲ 2,224
固定負債合計	10,190	9,801	▲ 389
負債合計	19,521	16,907	▲ 2,614
純資産合計	24,879	22,620	▲ 2,258
負債純資産合計	44,400	39,527	▲ 4,872
自己資本比率	50.0%	51.7%	1.7%

- 流動資産減少の主な要因：売上債権24億54百万円減少、現金及び預金12億38百万円減少
- 流動負債減少の主な要因：仕入債務19億10百万円減少
- 純資産減少の主な要因：親会社株主に帰属する四半期純損失14億93百万円の計上

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

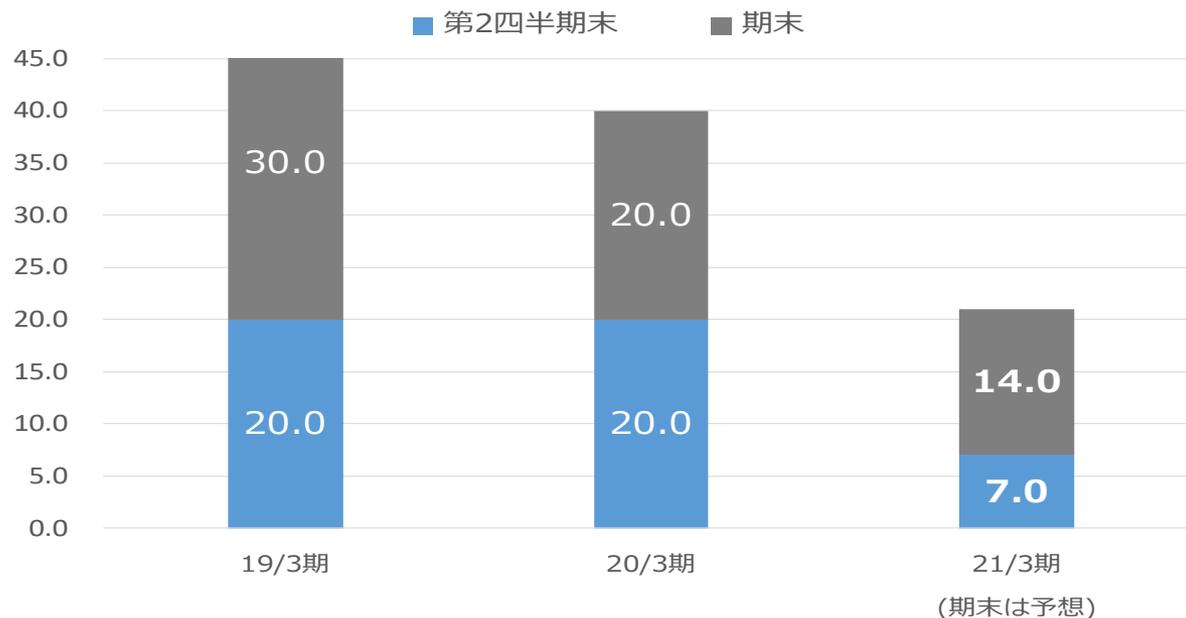
	20/3期 上期	21/3期 上期	前年同期 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	365	▲ 300	▲ 666
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,189	▲ 40	1,148
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 210	▲ 1,009	▲ 799
現金及び現金同等物の増減額(▲減少)	▲ 1,089	▲ 1,472	▲ 382
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,331	5,239	▲ 91

主たる要因

- 営業活動によるCF：税金等調整前四半期純損失の計上、仕入債務の減少
- 投資活動によるCF：定期預金の純減額、有形固定資産の取得による支出
- 財務活動によるCF：少数株主への配当金支払、長期借入金の返済

配当の状況

(単位：円)

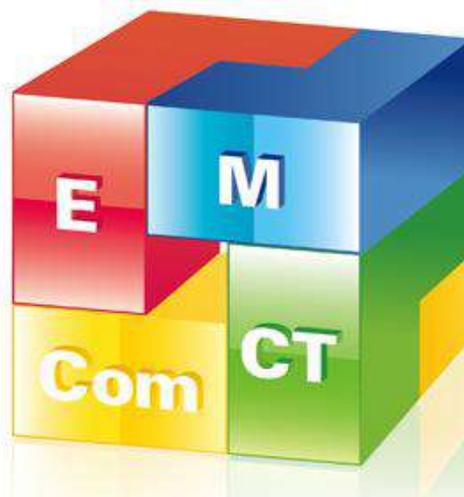


- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等から大幅な損失を計上する見込みではありますが、安定的かつ継続的な配当の観点等から、21/3期の中間配当金は1株7.0円。また、期末配当金は1株14.0円を予定し、中間配当金と合わせた年間配当金は1株21.0円の予定。

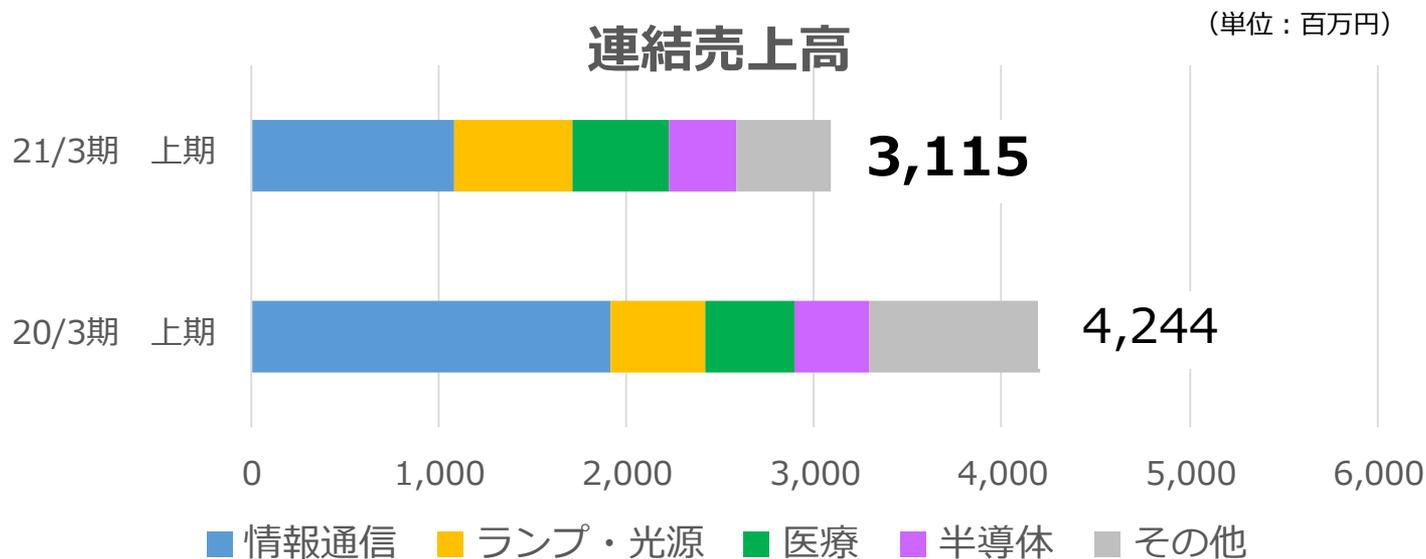
〈自己株式の取得〉

20/3期 2020年2月12日決議 400,000株 (上限) 500百万円 (上限)
 取得期間 2020年2月13日~2021年1月29日
 9月末時点 165,900株 224百万円

セグメント別



エレクトロニクス事業



21/3期 上期 連結売上高概況

- 前期同四半期比26.6%減
- 医療用・光源用の高圧電源は堅調に推移
- 携帯端末向け無線基地局用電源の需要減少
- 環境関連の高圧電源の更改需要の減少

21/3期 通期 連結売上高業績予想65億円

今後の収益改善策

- 高圧事業領域の拡充
(医療用および光源用 高電圧電源の開発推進)
- 構造改革 (倉庫/物流・調達) 及び生産性向上
(コスト低減による競争力強化)
- 品質体制の強化
- 中長期的な新規事業へのチャレンジ

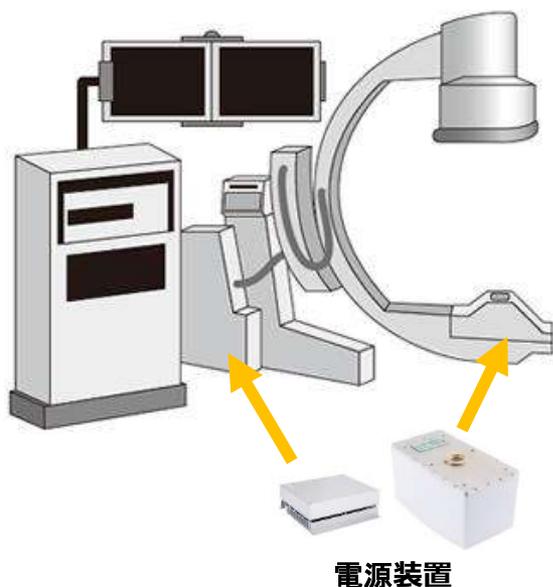
※下線部は次ページにて詳細説明

高圧事業領域の拡充

➤ 医療診断用X線電源

デンタル、マンモグラフィー、外科用、回診車、消化器系、循環器系など製品ラインナップを充実

新型コロナウイルス感染症の診断に必要な、回診車向けX線電源装置も対応



X線装置での電源装置使用例

ORX-1.0MGII
1kW for Dental X-ray mobile units



ORX-2.0MG
MONO-TANK X-RAY GENERATOR
2kW for C-arm X-ray mobile units



製品ラインナップの拡充

エレクトロニクス事業 今後の収益改善策詳細

中長期的な新規事業へのチャレンジ

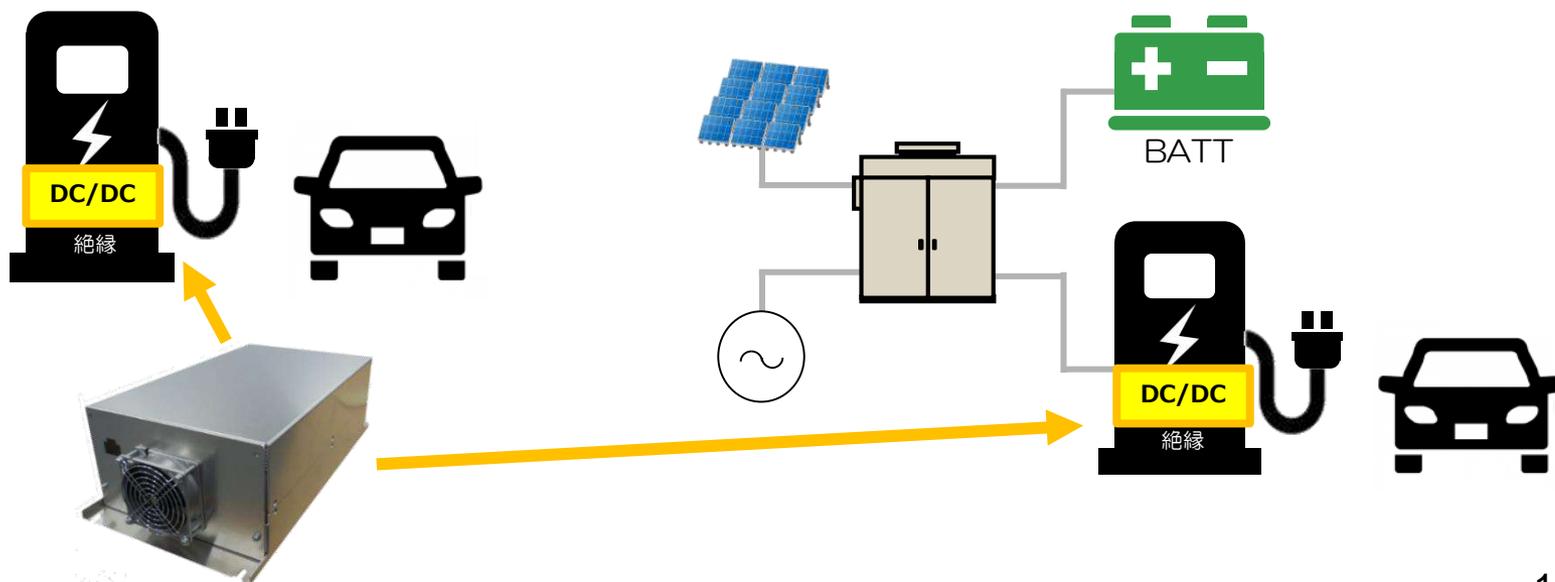
- 蓄電システム用電源（製品例：絶縁型5kW双方向DC/DCコンバーター）

V2H/V2G、マルチ蓄電システム、マイクログリッド、直流グリッドなどへの適用

広い電圧範囲に対応し高効率・低ノイズを実現する電源で顧客ニーズにマッチした製品の開発

【V2H/V2G】

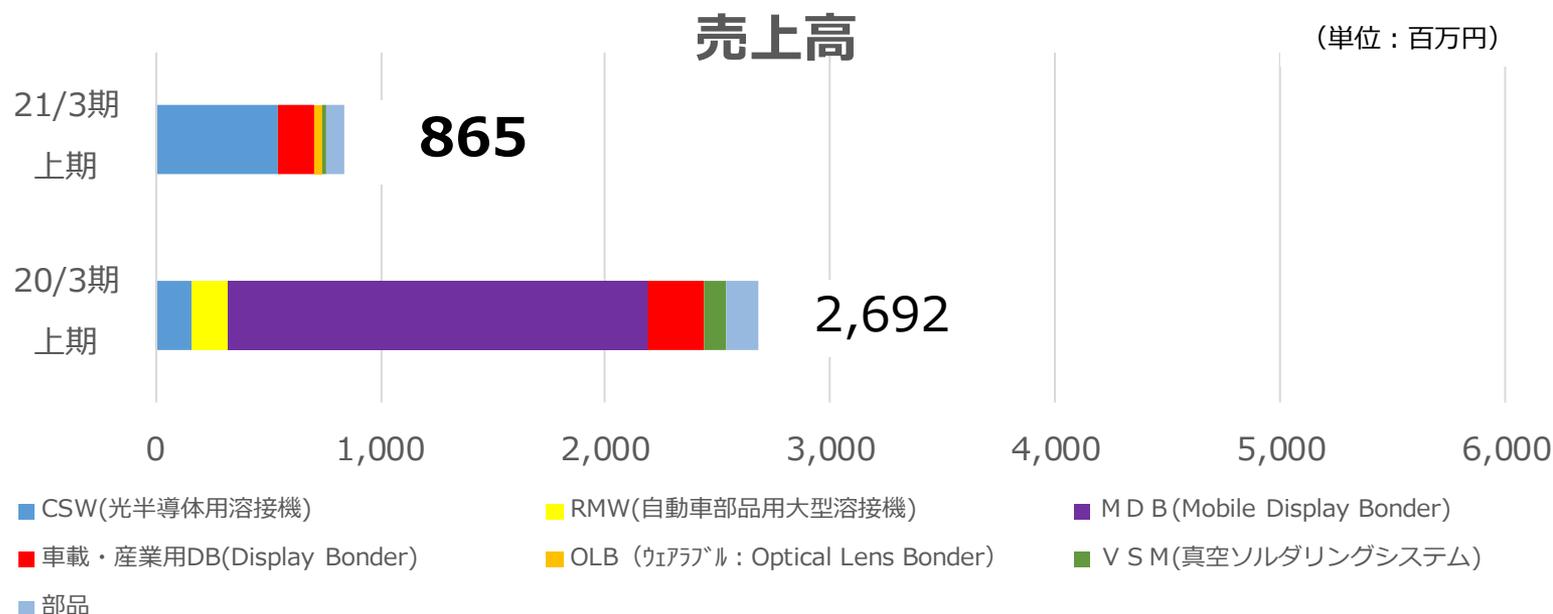
【マルチ蓄電システム】



絶縁型5kW双方向DC/DCコンバーター

- ※V2H 電気自動車に蓄えられた電力を家庭用に有効活用する方法
- ※V2G 次世代自動車の蓄電池を電力系の蓄電池として利用する方法

メカトロニクス事業



21/3期 上期 連結売上高概況

- CSW (光半導体用溶接機) と車載・産業用DB (Display Bonder)が売上寄与
- スマホ市場の成熟化によりMDB需要鈍化
- 新型コロナで設備投資抑制への影響大

21/3期 通期 連結売上高業績予想25億円

今後の収益改善策

- 市場別戦略による拡販強化
- 貼合せ技術をウェアラブル市場へ拡大
- 原価低減による収益向上
(原価低減：中国における更なる海外生産推進)
- 新規市場探索とその深耕

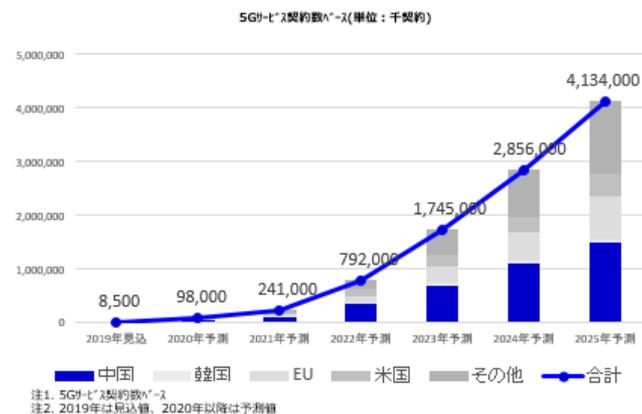
※下線部は次ページにて詳細説明

メカトロニクス事業 今後の収益改善策詳細

市場別戦略による拡販強化

- **車載・産業用DB (Display Bonder)**
 - ・車載用途市場に注力(日本・中国・欧米・他)
 - ・車載ディスプレイの需要が加速
(脱炭素社会実現へ注目される電動化)
(運転支援システムを含む自動化技術の進化)
 - ・意匠性重視が強まる市場ニーズへの提案力強化にて差別化
- **CSW(光半導体用溶接機)**
 - ・光通信市場に注力(中国・台湾)
 - ・5Gインフラの急拡大が進む『中国市場』が最大ターゲット
 - ・高精度製品市場への拡販 (高精度位置合せによる付加価値向上)

5G(第五世代移動通信システム)主要国サービス契約数予測

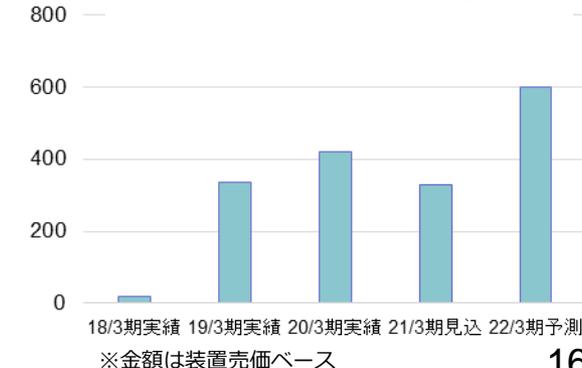


出典:2019年版5G移動体サービス市場展望 (矢野経済研究所)

原価低減による収益向上

- **標準機の更なる海外生産推進**
 - ・18/3期から中国での標準機生産に取組み開始
 - ・21/3期以降も海外生産を推し進め、更なる原価低減を図る。

メカ事業の海外生産推移



メカトロニクス事業 今後の収益改善策詳細

貼合せ技術をウェアラブル市場へ拡大

オリジンの貼合技術は
スマートフォンから車載・産業用ディスプレイ
そしてウェアラブル（VR・AR）へ



MDB 2010～
スマートフォン

DB 2017～
車載・産業用ディスプレイ

OLB 2020～
光学レンズ

開発に取り組んで参りました光学レンズ貼合せ装置を、
今下期からウェアラブル市場へ投入いたします。
ウェアラブルは企業向け(医療、工場、教育、シミュレーション等)、
そして一般向け(ゲーム、アミューズメント等)への大きな広がり
が期待されます。今後はメカトロニクス事業の基幹事業のひとつ
として捉え、更なる拡販に挑みます。

●ヘッドマウントディスプレイ（HMD）の世界市場【VR表示機器】



●スマートグラスの世界市場【AR表示機器】

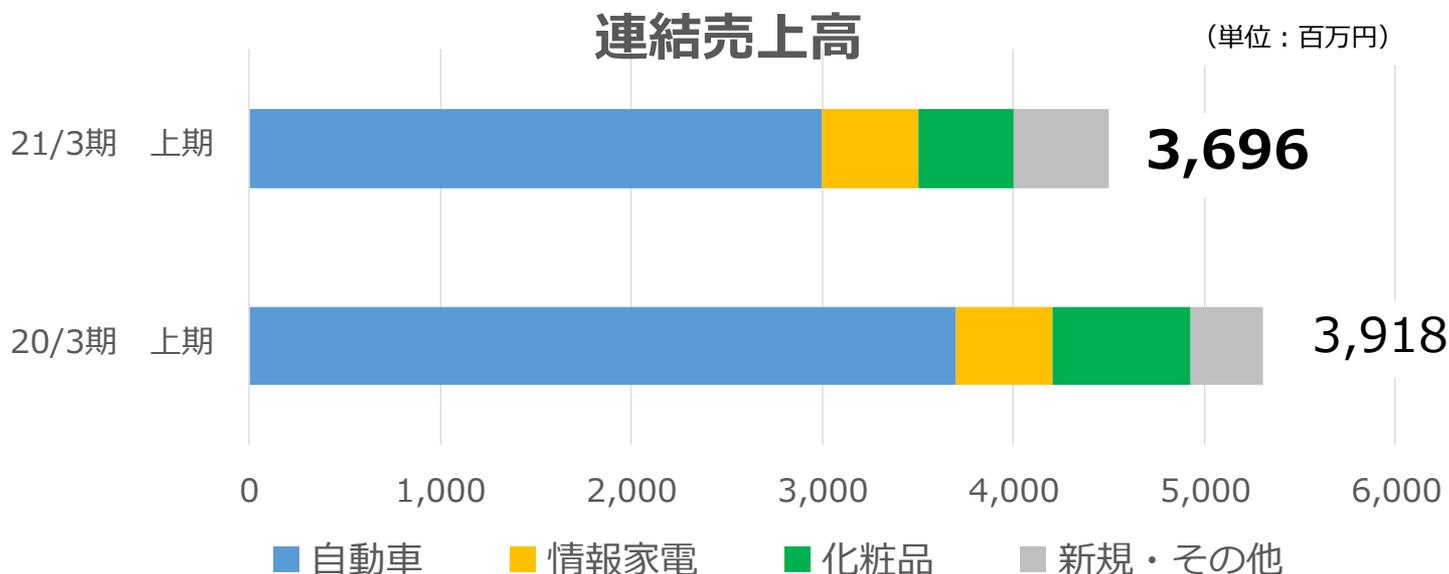


出典：富士キメラ総研2020年8月22日PRESS RELEASE

※MDB Mobile Display Bonder (モバイル用ディスプレイ貼合せ装置)
 ※DB Display Bonder (車載・産業用ディスプレイ貼合せ装置)
 ※OLB Optical Lens Bonder (光学レンズ貼合せ装置)

※VR Virtual Reality (仮想現実)
 ※AR Augmented Reality (拡張現実)

ケミトロニクス事業



21/3期 上期 連結売上高概況

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う

- 各自動車メーカー減産
- 化粧品分野の需要減少

が影響し、国内外で大幅な売上減

21/3期 通期 連結売上高業績予想80億円

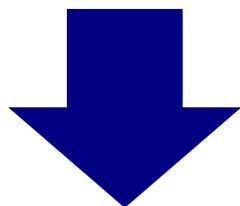
今後の収益改善策

- 中京圏自動車市場でのシェア拡大
- 関東圏自動車市場での売上拡大
- 新規向けによる業績貢献

ケミトロニクス事業 今後の収益改善策詳細

➤ 中京/関東圏における自動車市場での拡販強化

- ・ 環境対応塗料“エコネット”シリーズの製品力UP
- ・ 機能性塗料の拡販強化、アイテム拡充



- ・ 内装部品市場でのシェア維持拡大
- ・ 外装部品市場への再チャレンジ
- ・ 機能性塗料をツールとしたADAS関連部品への拡販



※ADAS 先進運転支援システム

外装部品市場への再チャレンジ

製品一例：プラネットHS

特徴

- 高い塗着効率により、CFRP特有の外観不具合の低減に寄与
- 補修性/耐候性に優れ、自動車外装用途等に使用可能
- 優れたレベリング性

※CFRP=炭素繊維強化樹脂

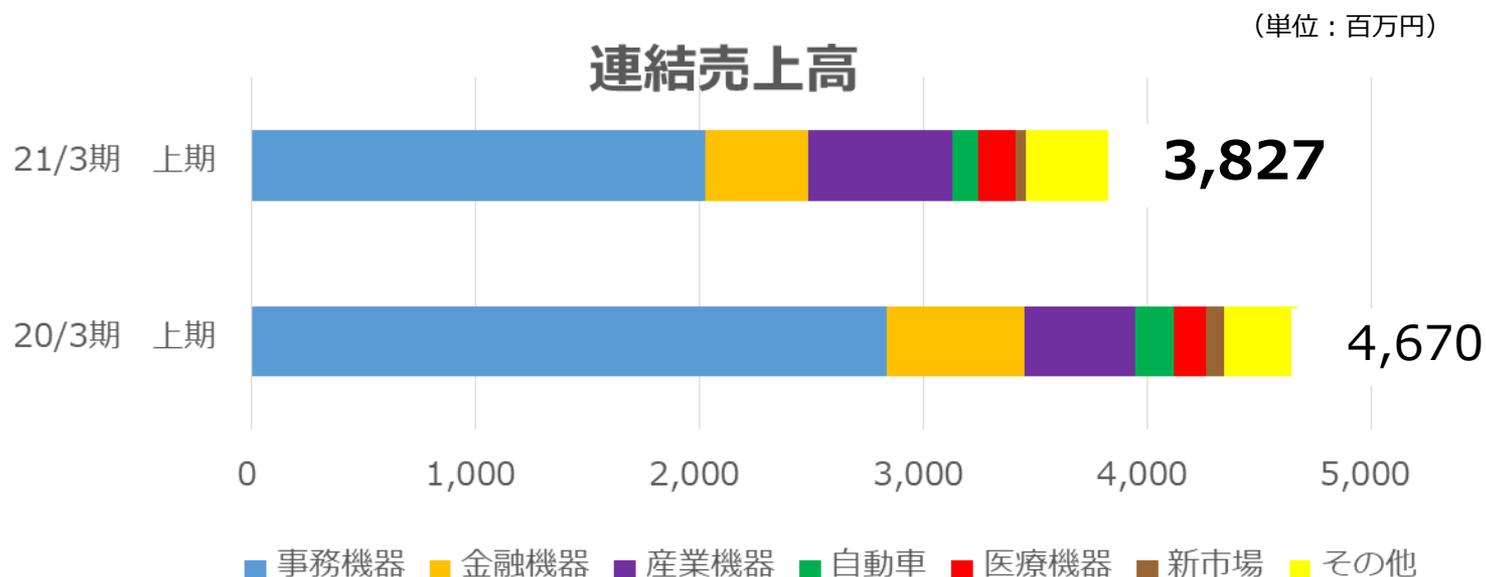
用途

- 自動車外装部品
- 医療機器
- スポーツ用品 等



※CFRPイメージ

コンポーネント事業



21/3期 上期 連結売上高概況

- 前年同期比18%減
- 主要因は新型コロナウイルスの影響に因る事務機器市場の落ち込み

21/3期 通期 連結売上高業績予想70億円

今後の収益改善策

- 新製品上市（自動車向け等）
- 自動車／住設（新市場）への拡販活動強化
- 生産体制再構築による原価低減（国内／海外）

コンポーネント事業 今後の収益改善策詳細

➤ 新製品上市（クラッチ関連製品 及び トルクリミッタ）

EV自動車向け『小型高トルクリミッタ』、住宅設備向け応用製品『OSF』シリーズ品が上市開始。新製品の早期上市・展開により売上拡大を図る。



小型高トルクリミッタ



'OSF' シリーズ化

取組強化ターゲット市場：自動車、住宅設備

既存市場を原価低減により維持・拡大しつつ、新しい市場への展開拡大中。

海外現地商社とデジタルマーケティングを活用し世界市場への活動を強化する。

既存市場



事務機器



金融機器



産業機器



新市場



自動車

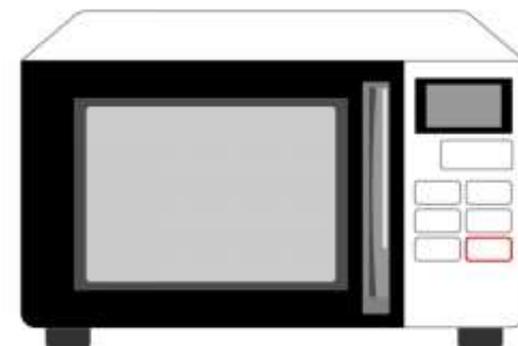
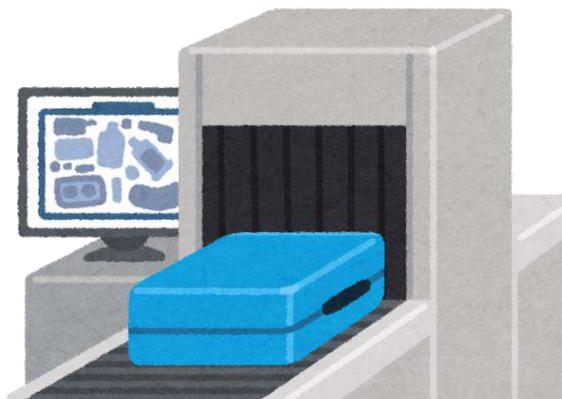


住宅設備

コンポーネント事業 今後の収益改善策詳細

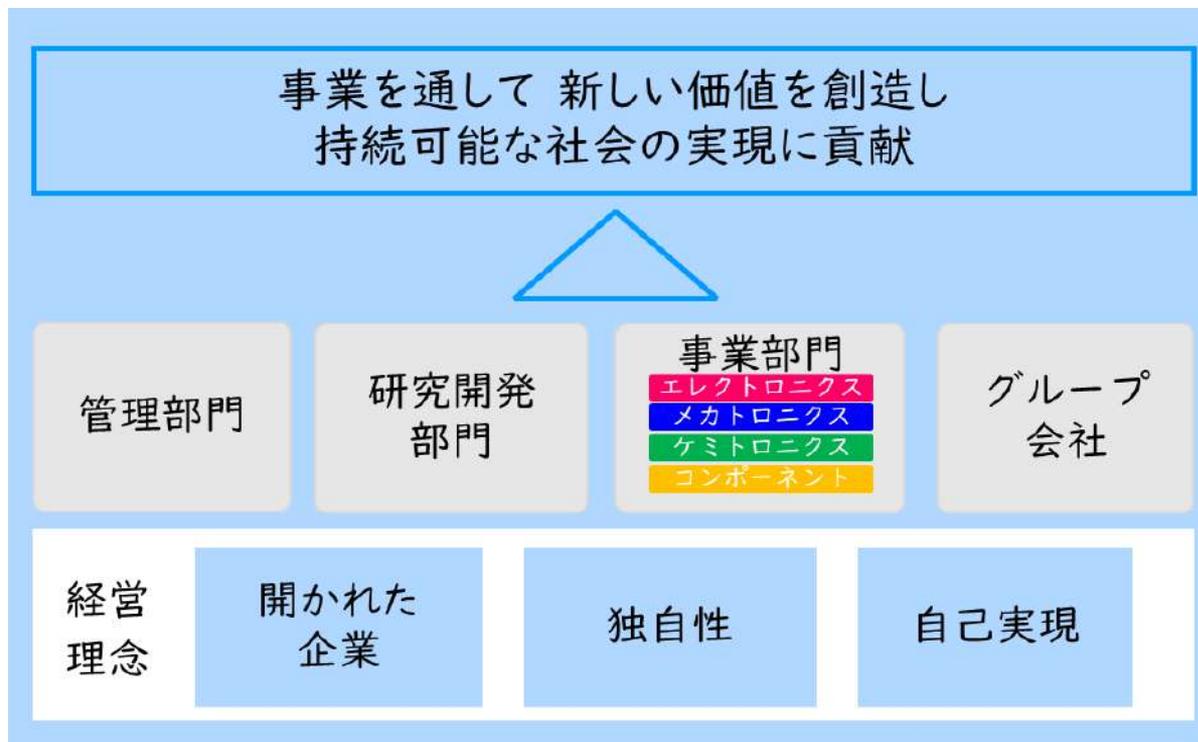
➤ 新製品上市（高圧ダイオード）

- ・ 今後新製品を上市予定（小電流タイプ、気中使用タイプ）
- ・ 廉価品の開発（積層方法の工夫、材料調達先見直し等）により、一般撮影用X線やCTなどの得意としている市場だけでなく、歯科用X線、工業用X線、家電製品への参入、深耕を図る



CSR推進

持続可能な社会の実現に向けた取り組み



CSR（企業の社会的責任）を経営の重要な戦略と位置づけ、当社代表取締役社長を最高推進責任者とする「CSR委員会」を設置しています。

経営理念の実現と、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、[グループ行動憲章](#)に則り、社会課題の解決と当社グループの持続的な成長に向けて取り組んでいきます。



医療診断用 X線電源



抗菌塗料



エレベーターの行先階ボタンへ塗布

SDGs（持続可能な開発目標）は2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標で、2015年9月に国連サミットで採択されました。



当社Webサイトにて、ESG視点からの【CSRの取り組み】をご紹介します。

CSRの取り組み



- ◇当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ◇当資料に掲載しております情報は、2021年3月期第2四半期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる保証を行うものではありません。
- ◇業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。
- ◇当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。